いちはら No. 74

国際交流協会ニュース

－Ichihara International Association－

2020年3月17日　発行　市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所　人権・国際課内
TEL 0436-23-9826　FAX 0436-21-0332　e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス　https://iia-ichihara.org/

国際交流ひろば　出演者・家族が合同で

■ 国際交流ひろば
来て！見て！話そう！

■ 英会話ブラッシュアップ講座開催

■ やさしい国際理解セミナー
「オーストラリアに学ぶコミュニティづくり」

■ I.I.A.レポート
●日本語教室バス研修
●外国人市民の為の防災教室
●わたしのふるさと「ブラジル」

ブラッシュアップ講座受講者一同と関係者　おもてなし市原の貴重な戦力に

国際交流ひろば　来て！見て！話そう！

2019.12.15　交流部会

今年の「国際交流ひろば」は例年利用している会場のyouホールが一連の台風の影響で使用できなくなり、急遽使用させて頂くことになったのが馬立にある「戸田コミュニティセンター」である。流石に市原市の中心部にあるyouホールと比較すると利便性に難があることは否定できず、どの位の参加者があるか危ぶまれたが、蓋を開けてみると来場者は約100名と、まずまずの結果であった。開会は10時半、今回の参加国はタイ、中国、台湾、韓国、ペルー、ネパール、日本の７つの国と地域。これは交通の便の問題もありや々減少した。

冒頭、７月に「パプアニューギニア」の講演をしていただいた杉原康彦さんが、好評だったパプアニューギニア産コーヒーを持って駆けつけてくれ、ひとしきり貴重な体験談を語ってくれた。お陰で今回もコーヒーは売れまくり昼過ぎには無くなってしまった。11時過ぎから各国のブース紹介、それぞれ工夫を凝らした展示を繰り広げ、その紹介で盛り上がった。

さて愈々お待ちかねの試食タイム。心づくしの家庭料理が並ぶ。皆列をつくり行儀良く頂く。取りすぎないよう、自分が食べられるだけ皿に取る。勿論お代わりは自由である。これで500円は安い。

１時間ほどランチタイム、昼食を囲んで話に花が咲く、というのはこういう風景かと納得。昼食後はステージパーフォーマンスである。これも各国の演芸が次から次へと観衆を飽きさせない。

皮切りは台湾出身、三浦明珠とBGバンドの歌と演奏、続いて日本舞踊、中国出身の15歳による初挑戦の北京オペラ、タイの民族舞踊と華やかな民族舞踊が連続で披露された。クイズタイムの後、最後は出演者・参加者入り混じったダンスで３時過ぎフィナーレとなった。いつものことだが、参加者が一致団結しての整然とした後片付けも見事であった。このイベントは同郷の日本国内遠方に在住する仲間が地域を越えて１年に一度集まり郷土の伝統芸能を共に踊り披露する、そんな集いが国境の枠を超えて行われる「ひろば」である。

今回の参加は７つの国と地域

各国のブースが並んだ

各国の家庭料理が並ぶ試食タイム

皆仲良く列を作り、和やかなランチタイム

ステージパーフォーマンス

華やかな各国の歌と踊り

2020 オリンピック・パラリンピックに向けた英会話ブラッシュアップ講座の開催

市原市スポーツ国際交流部人権国際課より委託を受け、昨年５月から11月にかけ16回（２時間／回）にわたる英会話力ブラッシュアップ講座が開かれた。参加者は、市が募集し応募者の中から厳選した市内在住の老若男女25名。約６ケ月に亘る長期でしかも参加費無料という珍しい講座。IIAは講師の選定をはじめ開催場所（市民会館とYouホール）での受講者受入などの実施業務に携わった。

講師には米国ウィスコンシン州在住の国連などで国際的に活躍されている宮崎先生をお迎えした。講座内容や進め方は先生の意向で、参加者25名を５グループに分けグループ内で活発な意見交換やグループ間の競争意識高揚を期待、又４週間毎にグループメンバーを総入れ替え、25名全員が触れ合える様配慮された。

講座は旅先での会話を磨くロールプレイ実習の他、毎回異なる新聞、雑誌、インターネット等の最新英語ニュースを使い解読と表現方法についてみっちり学んだ。参考に取り上げられた話題は、「日本の果物は何故高い？」「日本の健康食品、納豆」「江戸城から皇居へ－令和時代」「秒読みラグビーワールドカップ」等々。

最終日、インバウンド組と受入組の二手に別れ総当たり英会話交流で盛り上がった。最後に、人権・国際課五十嵐課長より終了証が各自に手渡され、長期の学習仲間に別れを惜しんだ。受講者玉井さんの感想文を紹介させていただきます。

英会話ブラッシュアップ講座を終えて

2019年５月から11月まで全16回の本講座を25人で受講しました。参加者の年齢は幅広く、小学校高学年から70代位までで中級者向けでしたが、毎回４－５人程度のグループで読む・聞く・話すことをバランス良く学習しました。オリ・パラを見据えたものでしたが、海外旅行をテーマにした公式テキストの他に、与えられたテーマに沿ってチーム内で意見を出し合い、内容を纏めて発表をしたり、推測や質問をするゲームを行ったりと、とてもアクティブでした。また、新聞や雑誌の切抜きなどの毎回異なる時事に触れたトピックを用いて、オリンピックやラグビーなどのスポーツ、日本の食文化、新元号に伴う皇室、環境問題まで、英語で考え、発信するように工夫されていてとても有意義でした。

玉井　淳子

やさしい国際理解セミナー「オーストラリアに学ぶコミュニテイづくり」

2020.1.25　総務部会

１月25日（土）、国分寺台公民館で原麻里子さんを講師にお招きし総務部会恒例の「やさしい国際理解セミナー」を開催した。原　麻里子先生は、高校時代に市原市の姉妹都市である米国アラバマ州モビール市を青少年派遣団の一員として訪問したことで海外への夢が大きく開いたという。青山学院を卒業、社会人となり更にその夢は大きく膨らみ、豪州メルボルン大学でDevelopment Studyを履修。地域の社会生活形態や形成（Community）について研究された。

昨年帰国、市原市で将来のまちづくりの具体的展開について研究する団体「Co-Saten Goi」（五井中央西2－8－26シンコープラザ）に参画した。

さて、講演はオーストラリアの紹介から始まった。産物、動物、人、広大な土地、歴史と共に発展して来た多民族国家。中でもメルボルンは「世界で最も住み易い町」と評価されており★コーヒーのうまい町★芸術の町★ストリートアートの町★スポーツの町★メルボルンカップの町、等々。

地域社会での活動組織には地縁型と目的型に大別される。地縁型には町会等があり目的型には同好会等がある。オーストラリアでのまちづくりの形には幾つもの例がある。例えば、中核となる家を持ち、20人程が集まって利用できる食堂等集会機能を持たせる一方、取巻く家に異なる目的に沿った活動単位を設け、庭や空地、公園では共同で植栽活動を行う。一方専門家が並行して職業訓練をも行い就職活動の支援を行う。更にボランティア活動を推進するために活動期間に応じた年金支給制度も実施されている。又、閉鎖された工場跡地等を活用して環境にやさしい公園や食材を生む畑などに再開発する活動もある。更に、毎週100人分規模の食事を提供する食堂やカフェを営む経済活動もある。食堂では最低価格のみ設定され、お客が評価して値段を決めるものもある。色々な工夫をして多様化流動化に対応している。これらの要素を将来の市原市のまちづくりに如何に生かすか提案していくと若さ溢れる意気込みが伝わって来た。楽しみである。

I.I.A.レポート
活動報告
2019年11月～2020年2月

日本語教室バス研修（19.11.30）

■日本語教室部会

11月30日（土）午前９時30分、市役所を出発。天気は素晴らしく、高速道路から遥か遠くに雪をかぶった富士山、スカイツリー、東京タワー、お台場海浜公園を眺め、レインボーブリッジを渡りバスは一路築地へと向かった。

週末の築地は人、人、人で溢れていた。11時頃の到着だったが直ぐに昼ご飯を食べるようにしておいたのは大正解。ますます人が増えてきたからだ。買い物、昼食を済ませ、次の訪問先の皇居東御苑に向けて出発した。折しも大嘗宮見学と重なり、東御苑へ向かう途中、行き交う人の波で何人かは大嘗宮見学へ向かう人の列に巻き込まれてしまった。何とか東御苑の出入り口で合流し集合写真を撮影。

その後、二の丸庭園付近の紅葉散策を楽しみ駐車場に戻った。大手門を通るのにまたまた人の行列。東京駅までの銀杏の見事な黄葉を眺めながらバスに戻り帰路に着いた。人ごみ、大勢の警察官が印象に残る研修ではあったが、築地の新鮮な魚介類を味わい、活気ある商店街を肌で感じ、これも又話のタネになればと思う。

外国人市民の為の防災教室を開催（20.1.19）

■交流部会

１月19日（日）国分寺公民館で外国人市民の為の防災教室を開催した。

前半を市役所危機管理課の石本氏を講師に「自分たちの住むまちの災害リスクと備え」をテーマにお話しをして頂いた。防災教室は例年地震をテーマにしていましたが、今年度は台風のリスクも考慮し計画していた。

今回は直近で大きな台風災害があり参加者の質問が集中した。「もし、部屋の窓

が割れてたらどうしたら良いのか？」などリアルなものも有った。

また、今回は日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語にボランティアの協力を得て翻訳、簡単なパンフレットを作り配布した。

後半は、市原警察の移動交番から２人のお巡りさんが来て110番のかけ方や詐欺の話しなど身近に潜む犯罪や、文化の違いから生じる慣習などでしてはいけない事など注意事項をやさしく説明して頂いた。当日の参加者は中国、ブラジル、ペルー等13名でした。

わたしのふるさと「ブラジル」

平出　まゆみ

私のふるさとはブラジルの小さな町です。おじいちゃん達日本人がたどり着いた頃まだ村でした。

日本人移民の努力により町になり、７（セテ）の金の延べ棒（バーラス）が見つかったことからセテ・バーラスと名付けられました。

サン・パウロ市から南に向かう下り道を200km、緑の山が連なる景色の中、車で２時間30分で着きます。町に近づくと両側の道にバナナ農園が広がり大きな川がありフェリーで渡っていた時代には船着場が町の中心でした。その後、橋ができ川から離れた高台に町が広がっていきました。田舎のどこにでもある風景では教会の前に公園があって休日には人々が集まってにぎやかな声が響きます。

子どもの頃、蒸し暑い日に汗まみれで道の真ん中でタコ上げ、コマ、ビー玉等で近所の友達と遊んでいた。川で魚釣り、洗濯おばさんに付いていき川で洗濯のじゃまをしながら遊んでいた。自然があふれていてのどかな町。ハチドリは空中に羽ばたきながら止まって花の蜜を吸う。夕方に川岸のダンチクにコサギの群れが泊まりに来ます。

夜になると星空が目に飛び込んでくる。ホタルが家の中に迷子のように入ってくる。雨季に父達が帰ってくると袋の中から捕まえた食用ガエルを出して加工が始まる。

故郷から長く離れていても少女時代のふるさとが目に焼き付いています。